

## 資産管理ソフトの基本機能

想定している資産管理ソフトの機能を示すものであり、必ずしも全ての仕様を満たす必要はないものの、運用上の必須機能も存在することから、対応できないものは事前に明示すること。

## (1) 資産管理機能

ア グループ（例：課、事業場等）を作成し、クライアント端末ごとに各グループに所属させて、管理することができること。

イ クライアント端末からハードウェア/ソフトウェア情報を取得できること。

ウ クライアント端末のアプリケーションのインストール状況の確認が可能なこと。

また、以下の情報が取得できること。

①アプリケーション名 ②バージョン ③メーカー名

エ Windows セキュリティパッチ（Hotfix）等の適用状況を確認できること。

①クライアント名 ②適用パッチに関する情報（KB 番号等）

③WindowsOS バージョン ④Windows バージョン（例：21H2 等）

## (2) デバイス制御機能

ア クライアント端末に接続した USB デバイス等のシリアルナンバー、デバイス名、プロダクト ID、ベンダー情報を取得することができること。

イ USB デバイス、FD、SD カード、CD/DVD/Blu-ray、ポータブルデバイス（スマートフォン、タブレット等の記憶領域を有するデバイス）について、（書込み許可、読み込み専用、使用禁止）ができること。

ウ USB デバイス、SD カード、ポータブルデバイス等を個体識別して、個別に使用の制御（使用許可、読み込み専用、使用禁止）ができること。

## (3) ログ収集機能

## ① 操作ログ

ア クライアント端末で起動している、以下のプロセス情報が取得できること。

①プロセス名 ②アカウント名 ③起動日時 ④稼働時間

イ クライアント端末でアクティブになっている以下のウィンドウの情報が取得できること。①プロセス名 ②ウィンドウタイトル ③URL

ウ ファイル操作のログ（作成/閲覧/コピー/移動/リネーム/上書き/削除）のうち、以下の情報を取得できること。

①操作したクライアント名 ②イベント日時

③操作対象のファイル名又はファイルパス ④操作プロセス名（プログラム名）

② アプリケーション稼働ログ

ア クライアント端末で起動している、以下のプロセス情報が取得できること。

- ① アプリケーション名 ②アカウント名 ③起動日時 ④稼働時間
- ⑤ 通信先 IP アドレス

③ プリントログ

ア クライアント端末で起動している、以下のプロセス情報が取得できること。

- ①プリンター名 ②ドキュメント名 ③アカウント名 ④印刷日時 ⑤印刷枚数

④ WEB アクセスログ

ア クライアント端末で起動している、以下のプロセス情報が取得できること。

- ① WEB ページのタイトル名 ②アカウント名 ③イベント日時
- ④ 稼働時間 ⑤ URL

(4) アプリケーション配布機能

ア 以下の種別のタスクの設定ができること

- ①ファイル配布 ②プログラム実行 ③ファイル配布プログラム実行
- ④OS シャットダウン・再起動

イ ファイルなどの配布や実行を行う際、設定方法としてスクリプトを使用せずに GUI 操作（マウス操作）のみで設定ができること。

ウ クライアント端末のデスクトップなど、任意の配布先を指定できること。

エ ログオンしているユーザーの権限に依存せずアプリケーション・パッチのインストールが実行可能であること。

オ 配布実行結果の成功、失敗、中止、未実施と状況を把握できること。

カ クライアント端末側の作業無しにアプリケーション配布を可能なこと。

(5) ポリシー設定

各種ポリシーは、資産管理機能で設定したグループごとに適用を設定できること。

ア アプリケーション禁止設定

指定したアプリケーションの実行を禁止できること。

イ WEB 閲覧設定

指定したキーワード及び URL の閲覧を（警告/禁止）できること。

ウ 通信デバイスポリシー

①Wi-Fi 接続設定

- ・Wi-Fi 接続ごとに、禁止/許可できること。
- ・Wi-Fi アクセスポイント又は SSID ごとに、禁止/許可できること。

②Bluetooth 接続設定

- ・Bluetooth デバイスの接続を禁止できること。

③赤外線デバイス接続設定

- ・赤外線デバイスの接続を禁止できること。

(6) 不正 PC 検知遮断機能

ア 許可されているハードウェア以外をネットワークから遮断することができること。

(7) ログの保存について

ア 各種ログについては、CSV 形式で一括エクスポート保存できること。保存するログについては、下表を参考にすること。

イ 一括エクスポートしたログについては、稼働日から 5 年間の保存を想定する。

【参考】現在の一括エクスポートしているログの種別及び保存期間

(現在の使用ソフトウェア：LanScopeCat)

ログの種類	概要	保存期間
Web アクセスログ	クライアント名, ログ ユーザー名, イベント日時, 稼働時間, WEB タイトル, URL, 書込み内容等	5 年間 ※現在の保存状況 (200GB/5 年間)
アプリケーションタスクログ	クライアント名, ログ ユーザー名, イベント日時, 稼働時間, ファイルパス等	
アプリ通信ログ	クライアント名, ログ ユーザー名, イベント日時, プロセス名, ファイルパス, 通信元 IP アドレス, 通信元ポート No, 通信先 IP アドレス, 通信先ポート No, プロトコル等	
エージェント OnOff ログ	クライアント名, ログ ユーザー名, 日付, ON 時刻, OFF 時刻, 稼働時間等	
プリントログ	クライアント名, ログ ユーザー名, プリンタ, ドキュメント, 印刷時刻, 印刷枚数, プリンタ IP アドレス, 印刷元等	
リアルタイムイベントログ	クライアント名, ログ ユーザー名, イベント日時, 稼働時間, イベント, アプリケーション, ウィンドウタイトル, ファイルサイズ等	
ログ ユーザー OnOff ログ		
資産アラームログ		
通信デバイスログ	接続元種別, 接続元の名前, 接続元アドレス, 接続先種別, 接続先の名前, 接続先アドレス, 通信暗号化方式等	